

THE PERTH EXPRESS バックナンバー

Vol.169-180 2012 February - 2013 January

Vol.169 (2012年2月号)



「パースへの初志」と題した本誌 14 周年記念号。日豪の 14 歳、そしてパースで活躍する方々に自身の『志』についてインタビューした。また、パースで生活する人のある一日を紹介する「徒然パースの生活日誌」では、配管工として働く日本人を紹介した。

Vol.170 (4月号)



特集「ハーブのある暮らし」では、ハーブの育て方を写真と共に分かりやすく紹介。また、利用法や各症状に効くハーブも専門家のインタビューと共に解説した。また、柴田大輔氏、藤井満氏による連載「それでも生きる(それぞれ3回)」が最終回を迎えた。

Vol.171 (4月号)



手作り石けんの作り方を、実践を踏まえて紹介した特集「パースでカンタン! 手作り石けん」。パースで買えるこだわり石けんも紹介した。また「On the Road」の連載再開にあたり、筆者のフリーフォトジャーナリスト宇田有三氏のウェブサイトやブログ、出版物などを紹介。

Vol.172 (5月号)



「発見 WA 博物館」と題し、西豪州に関する多くの資料を保管している西オーストラリア博物館を、特集としてクローズアップ。また、藤井満氏による「ムラの行方」や、パースのサッカークラブで活躍する日本人サッカー選手に迫る「明日は来る」が連載をスタートさせた。

Vol.173 (6月号)



特集は、登山道などを走るトレイルランニングの魅力とパースのトレイルランニング・スポットを紹介した「自然の中を走ってみませんか? パースでトレイルランニング」。また、パースの恒例イベント「第8回パースエクスプレス・フットサル大会」の様態を掲載した。

Vol.174 (7月号)



パースが世界でどうランキングされているのかを、特集「ランキングでみる世界の中のパース」にて様々な切り口から紹介。また、「パースからお笑い芸人が誕生!」では、お笑い芸人チャドが豪州出身女優の忽那汐里さんと「ひみつの嵐ちゃん」で共演したことを伝えた。

Vol.175 (8月号)



「DIY (Do It Yourself)」と題した特集では、DIYのための道具や実践している方々取材、紹介した。また News のコーナーでは、ロンドンで開かれた第30回夏期オリンピックで金メダルを獲得したオーストラリア代表選手と、パース在住の代表選手の結果を報告した。

Vol.176 (9月号)



肌についての特集「今日から肌はじめ」では、紫外線や乾燥が気になる春に、肌に関する知識やケアの方法などを掲載。また、日本のニュースがひと目で分かる「Japan Flash」では、国政について「日本維新の会結成」などのニュースをピックアップした。

Vol.177 (10月号)



固有種を含むパースで見られる鳥をバードウォッチングの方法や観察ポイントとともに、特集「とりこどり バードウォッチング in パース」にて紹介した。また、パース拠点のプロサッカーチーム「パースグローリー」に、日本から永井龍選手が入団したことを報じた。

Vol.178 (11月号)



ごはんのお供となる6品のレシピを、シェフのアドバイスと共に「そんな時にごはんのとも」にて特集。また、人気コーナー「あなたの言いたいこと」では、前号 Vol.177 で掲載された「我慢すれば永住」に対しての感想や意見として、3つの投稿を掲載した。

Vol.179 (12月号)



「ここでしか出会えないダイビング」では、西豪州南西部のダイビングスポットと、そこに生息する固有種などの生き物を、写真と解説を沿えて特集として紹介。本誌記者によるダイビング密着取材も掲載した。また、連載「明日は来る」が全8回にて幕を閉じた。

Vol.180 (2013年1月号)



特集では「絵っ! こんなに簡単 パースを描こう」と題し、初心者向けに風景画の手法と、オススメ風景画スポットを紹介。また、豪日両政府要人から新年の挨拶を特別収録。そして「フォトジェニックコンテスト」では、クリス・ハザード氏が光を操るテクニックを紹介した。



読者に支えられて 15 年。本当に有難うございました。今号 15 周年記念号は『パースへの御礼』とし、皆さんと一緒に作り上げてきた読者参加型大人気コーナーの「あなたの言いたいこと」を拡大して、スペシャル版にてお届けします!

今回もいろいろなジャンルにて投稿が寄せられました。将来に向けての志や移り行く感情、そして取り巻く環境や生活についてと、幅広く寄せられました。これらのジャンルは、トランプのマークの起源に類似する点もあることから、今回はそのマークに沿ったジャンル分けをしてみました。

| 【ジャンル分け】 | |
|--|---|
|  <p>スペード 剣をモチーフとして描かれ、戦う象徴でもあり、当コーナーでは将来への志や意志などについてふれた投稿。</p> |  <p>ダイヤ 貨幣がモチーフに描かれ、当コーナーでは政治・経済、社会など人を取り巻く環境などについてふれた投稿。</p> |
|  <p>ハート 聖杯や心臓をモチーフとして描かれ、当コーナーでは、人の移り行く感情や気持ちなどについてふれた投稿。</p> |  <p>クラブ 農民の棍棒がモチーフに描かれ、当コーナーでは、日々の生活や日常などにふれた投稿。</p> |



そうそう、オージーの女の子を狙っている日本人男子、そういう人になれば、オージーの彼女をゲットできるよ!

<投稿者> M好き 21歳 女性

日本人の男の人で、オージーと付き合ったり、結婚している人って、マジ尊敬!だって、超Mでしょう?!

自分の彼女は、オージーだけど、とにかくぜ〜んぶやってくれる!朝起きると、朝ご飯の準備から、シャワーも私を優先してくれたり、そのシャワーのあるバスルームの掃除も彼氏がやってくれる。バイト先にも送ってくれるし、迎えにも来てくれる。夕食の支度もしてくれるし、お皿洗うのも彼氏。ベットメイキングも彼氏だし。朝から晩までみ〜んな、彼氏がやってくれる。

友だちのオージーカップルがいて、その家もみんな旦那がやってくれるみたい。私みたいな付き合いが短いか、付き合い始めとか全然関係ないみたい。その友だちは、仕事が終わったら習い事までして、家に帰ると夕食ができているんだって。車は使いたい放題だし、旦那は公共のバスが足なんだって。子育ても、旦那が仕事場にいる以外の時は、ほとんど旦那任せ。

って、思うんだけど、そんなオージーの女の子と日本人の男は、キホン、お付き合いできないっしょ!だって、日本人の男の人って、口では調子を合わせて「彼女のためなら」とか言ってるけど、いざという時は、男風を吹かすでしょう。そんな男ばっかなのに、それでもオージーの女の子と一緒にいる日本人男子は、めっちゃ優しく、女の子を第一に考えられる人なんだろうなあ〜、と思いまーす。まあ、よっぽどのMとか、自分を犠牲にできる人、自己主張が少なかったり、ない人なんじゃないかな、とも思うんだけど。ゴメンなさい、悪い意味じゃないで〜す。



アボリジニのことを悪者のように思っている、ワーポリのみなさん。それは、大間違いです。よく考えてみてください。彼らの生活を壊したのは白人です。その白人が使う英語を絶対みたくにして、潜在的にも白人崇拝しているワーポリのみなさん、本末転倒です。アボリジニのことをもっと勉強してから、自分の立場を決めて下さい。

<投稿者>俺もワーポリ 30歳 男性



タトゥーで『Take it easy!』と『No worries mate!』を腕に入れました。辛くなったら、これを見ます。震災の後、めっちゃ落ち込んで、鬱になったけど、こっちに来て、オージーに出会って、人生変わりました。オーストラリア最高!

<投稿者> M☆H 22歳 男性